

公益財団法人JR西日本あんしん社会財団

2025年度事業計画

(2025年4月1日～2026年3月31日)

I 2024年度の事業実施状況

2024年度は、ポストコロナ社会における行動変容への対応や一部事業に係る社会的インパクト（アウトカム）調査を通じて、これまでの取組みを継続・深化するとともに、特定費用準備資金を活用し、令和6年能登半島地震の被災地・被災者支援活動に対する助成（特別枠）の募集を行う等、「安全で安心できる社会づくり」に貢献するという当財団の目的に沿って、主催事業及び助成事業を着実に実施した。

また、主催する各種事業や助成事業の成果等について、PRTIMES社のプレスリリース配信サービスやSNS（Facebook広告を含む）を積極的に活用し広く情報発信を行った。

（主な実施事業）

- グリーフ等をテーマに「いのちのセミナー」の開催（6回開催うち、2回はハイブリッド方式）
- 上智大学グリーフケア研究所が開講するグリーフケア専門職の人材養成講座への寄付助成の実施
- 近畿2府4県の小・中学生を対象とする「『いのち』の作文コンクール」の開催
- 地震から命を守るためにすべきことをテーマに「安全セミナー」をハイブリッド方式にて開催
- 救命処置の普及啓発のためAED訓練器等の助成事業及び心肺蘇生法等体験会の実施
- 近畿2府4県の「いのちの電話」7団体への寄付助成と合同研修会の開催に対する助成の実施
- 関西遺族会ネットワークの例会開催に対する助成の実施
- 事故、災害等への備えや発生後の心身のケアをテーマとした活動や研究に対する公募助成の実施
- 助成活動の成果発表や助成先の相互交流を目的とする「公募助成成果発表会」「AED訓練器等助成活動成果報告会」の開催（更なる社会還元を企図して出席対象者を団体・研究者の関係者へ拡大）
- 広報誌「Relief」の発刊（年2回）

II 2025年度事業運営の基本方針

設立の趣旨を踏まえ、引き続き心身のケアや地域社会の安全構築に関わる各事業を通じて、「安全で安心できる社会づくり」に貢献できるよう取り組む。

具体的には、当財団らしさを大切にしながら、現代社会における価値観やライフスタイルの多様化に対応し、事業を着実に実施するとともに、事業内容の充実を図る。また、人件費をはじめ物価が高騰する中、限られた予算を有効に活用するため、引き続き効果的・効率的な事業運営を追求する。

あわせて、本年4月からの新たな公益法人制度に対応するとともに、将来の事業展開について、中長期的視点から検討を行い、新たな事業価値の創造を追求する。

- 主催事業及び助成事業の充実と着実な実施
(ターゲット層や社会的インパクト（アウトカム）を意識した企画・運営 等)
- 物価高騰等も踏まえた効果的・効率的な事業運営の追求
(デジタル化や外部リソース・AI等新技術の活用の深化、協力団体との協働 等)
- 公益法人制度改革への対応及び将来の事業展開に向けた検討
(自律的なガバナンス充実と透明性向上、将来を担う世代への対応など新たな価値創造の追求 等)

III 事業推進事項

1. 心身のケアに関わる事業

(1) 「いのちのセミナー」の開催

身近な地域での地震や豪雨等の自然災害、事件や事故による甚大な被害の発生のほか、V U C Aの時代にあって、人びとが抱えるグリーフやスピリチュアルペインが多様化している。このような認識のもと、「いのち」について多様な観点から改めて深く考える機会を提供するため、多方面から講師を招き「いのちのセミナー」を6回開催する（アーカイブ動画の活用を含む）。

なお、会場での開催は、原則、同時にウェブ配信も行う方式（ハイブリッド方式）とする。また、聴講者の属性やアウトカムを意識したテーマ・講師を選定し、本セミナーの充実と聴講者層の拡大を図る。

(2) グリーフケアに関わる人材育成の取り組みへの助成（上智大学グリーフケア研究所人材養成講座）

設立趣旨を踏まえ、大切な方との死別など、さまざまな喪失体験によって悲嘆の状態に陥った方々のケアやサポートが極めて重要であり、コロナ禍や大規模災害等を経て、一層その重要性が増しているとの認識のもと、いつでも誰でもグリーフケア、サポートを受けることができるような社会的な基盤整備が進むよう、専門職やボランティアとしてグリーフケアの実践に携わる人材育成を目的とする上智大学グリーフケア研究所の人材養成講座（大阪）に対し、引き続き賛助会員として寄付助成を行う。

(3) 「小・中学生『いのち』の作文コンクール」の開催

子ども達に対して各々の視点で「いのち」について深く考え、それを表現にする機会を提供することで、次世代を担う子ども達の「いのち」を大切にする「こころ」を育み、当財団の目指す「安全で安心できる社会づくり」につなげていくために、引き続き近畿2府4県の小・中学生を対象に「いのち」をテーマとした作文コンクールを開催する。また、受賞作品集を制作し、参加学校・図書館等へ配布する。

2. 地域社会の安全構築に関わる事業

(1) 「安全セミナー」の開催

広く多くの方々に参加していただけるよう、世の中の関心やニーズ、その緊急性や重要性などを考慮しつつ、幅広い視点から地域社会の安全構築につながるテーマを選定し、「安全セミナー」を開催する。

なお、より多くの方の参加が期待できることから、ハイブリッド方式で開催するとともに、本セミナーの内容等に鑑みて、原則、聴講者からの要望の有無に関わらず手話通訳を配置する。

(2) A E D訓練器等の助成による普及団体の支援

A E D訓練器等を団体等に助成する事業を実施することで、救命処置の普及啓発を推進し、一人でも多くの助かるいのちを助けられるよう、救命率の向上を図る。

また、助成先団体からの活動報告や相互の交流等による普及啓発活動の活性化を目的に、活動成果報告会を開催する。

(3) 救命処置の普及啓発活動

救命処置に対する意識の向上と知識・技術の取得を同時に実現する観点から、「安全セミナー」の受講者を対象にA E Dの使用や心肺蘇生法等の体験会を実施する。

また、A E D使用率が低下している現状を踏まえ、救命処置の重要性について、J R西日本や関係団体等と連携・協力し、普及啓発を推進していく。

3. 「安全で安心できる社会」の実現に関わる事業

「安全で安心できる社会」の実現に向けた取り組みを行い、顕著な実績を挙げている団体に対して寄付助成・協力を行う。

(1) いのちの電話への助成

電話相談を通じて精神的危機に瀕している方々の立ち直りを支援する取り組みを行っている近畿2府4県の7つの「いのちの電話」に対して、相談員を対象とした研修や心のケア、相談員募集活動等に対し寄付助成を行う。

また、7団体合同で実施する研修会へ寄付助成を行い、団体間の更なる連携・スキル向上を支援する。

(2) 関西遺族会ネットワークへの助成

さまざまな理由により大切な人を亡くした方が同じような境遇の方と語り合うことで心を癒す場である遺族会の集まりである「関西遺族会ネットワーク」の定例会の開催に対して寄付助成を行い、遺族会全体の運営力向上を支援する。

4. 公募助成事業

設立趣旨をふまえ、引き続き事故や災害、不測の事態への備えや発生後の被害者・被災者支援等の観点から、「安全で安心できる社会」の実現に寄与する活動・研究を対象に公募助成事業を実施する。2024年1月1日に発生した能登半島地震に関する公募助成(特別枠)についても、引き続き特定費用準備資金を活用して設定する。

また、助成活動・研究の成果発表や助成先相互の交流などを目的に公募助成成果発表会を開催する。更には、同発表会の開催を通じて、研究成果の一層の社会還元を図るとともに、同観点から、研究助成の募集のあり方についても検討する。

5. その他

(1) 広報活動のデジタル化推進

広報誌「R e l i e f (リリーフ)」、ホームページ、SNS、事業ごとの広報物等を活用し、主催する各種事業や助成事業の成果等について広く情報発信を行う。

また、助成団体や協力団体等と連携し、ホームページやSNSでの情報発信を充実するとともに、世代別に訴求方法やタッチポイントを意識して外部リソースを有効活用するなど効果的な発信を行う。

(2) 地域における各種活動等に対する協力

当財団の設立趣旨に合致し、社会的必要性が高いと認められる活動に対して協賛、後援等を行う。

また、助成先団体や研究者など、外部との関係強化を図り、協力・協働して事業の推進・展開に活かす。

(3) 今後の事業展開に向けた検討等

新しい公益法人制度の下、自律的なガバナンスの充実や透明性の向上に努めるとともに、業務のデジタル化や外部リソース・AI等新技術の活用を通じて効率的な組織運営を図り、将来にわたる事業の持続可能性や発展につなげていく。引き続き、将来の基本財産運用益の減少も見据えつつ、中長期的視点で、持続的に事業を継続し、かつ、設立趣旨に沿ったより意義のある事業を展開していくため、社会的インパクト(アウトカム)の観点も取り入れながら、既存事業の充実や見直しに取り組むとともに、将来を担う世代への対応も含め、新たな価値創造に向けて新たな事業や既存事業の多面的な展開等の検討を深める。